

第336号

2017年
3月25日

月1回25日発行

げんぱつ

原発住民運動情報

発行所 原発問題住民運動全国連絡センター
発行人 中村敏夫/1部300円 年間3,000円
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-11-13
MMビルII (旧東洋ビル)402
TEL 03-5215-0577 FAX 03-5215-0578
郵便振替 00150-7-355202
http://homepage2.nifty.com/gjc/
メール=genpatu-jumin-c@nifty.ne.jp

原発 福島 事故から6年

原発ゼロの未来へ 福島とともに 3・4全国大集会

「未来へ向かう爺婆の後ろ姿を示そう！」

「原発をなくす全国連絡会」主催

「原発をなくす全国連絡会」は三月四日、東京・日比谷野外音楽堂で「福島原発事故から6年 原発ゼロの未来へ 福島とともに」3・4全国大集会を開催した。被災地福島県から二百五十人をはじめ、全国から三千五百人が参加した。「主催者あいさつ」で小田川義和・全労連議長は「福島の被災者切り捨て政治を許さない声を大きく広げ、国と東電に責任を果たさせよう」と訴えた。

藤野保史日本共産党衆院議員(岩淵友参院議員同席)が「国会議員あいさつ」。出席の木内孝胤民進党衆院議員の紹介。吉田忠智社民党党首、小沢一郎自由民主党代表、米山隆一新潟県知事、吉田毅城南信金相談役からのメッセージが紹介された。宇宙飛行士でジャーナリストの秋山豊寛さんが「メインスピーチ」。福島県でシイタケ農家を営んでいたが、いまは原発難民として京都



壇上の福島県代表に連帯を示す3・4全国大集会

在任と自己紹介。「率直に言っ会場はじいさん、ばあさんの顔が多い。これは戦前、戦後の歴史、原発の歴史を知っているからだ。原発ゼロの未来へ向かうじいどばああの後ろ姿を、次世代の子どもや孫にくっきりと示そう！」と

- 「原発さえなければ」の心の叫びを日本中に (二面)
- 「国と東電の責任」認めた前橋地裁判決 (四面)
- 書評 『原発はやっぱり割に合わない』 (八面)

ユーモアたっぷりに呼びかけた。「特別発言」では、二〇一五年九月に避難指示が解除された福島県檜葉町に帰還した早川千枝子さん(当センター早川篤雄代表委員夫人)が事故六年を経た被災者・被災地の現状と問題点を実感的に報告し、参加者の共感を呼んだ。(二面参照)

「さようなら原発1000万人アクション」の富山洋子さん、「首都圏反原発連合」のミサオ・レッドウルフさんが「連帯あいさつ」を行った。「各地、各分野からの発言」は、原発被害者訴訟原告団全国連絡会、玄海原発(唐津市労連)、浜岡原発(原発をなくす会静岡)が発言した。集会は「アピール」を採択して終了。その後、参加者は銀座デモを行った。

△訂正とお詫び▽前号の「全国代表委員会報告」の四頁(2)、事故対策をめぐっての十一行目「○第二原発廃炉をめざすたたいが正念場」から五頁(2)、事故対策をめぐっての全項までの三十九行分がダブリですので削除ください



●福島原発事故から六年。被災者対策と事故収束対策が遅々としてすすまない中、安倍政権は福島原発事故はすでに過去のものとして、福島切り捨て政治をすすめている

●しかし、福島原発事故による列島の放射能汚染、沿岸の海洋汚染は現実のことであり、国と東京電力の加害責任が消えてなくなるわけではない。国と東電の責任を問う被災者の集団訴訟が全国で展開されているが、その初判決が前橋地裁で示された(三面参照) ●事故収束対策も原子炉の熔融燃料(デブリ)の安全保管・処理の見通しがたったわけではない。未だにその有り場所の状況さえ掌握されていない。国と東電の責任が問われる ●東京五輪の前に、安倍政権は福島原発事故はなかったことにしようとしているが、それは許されることはない。真摯に事故に向き合うこと以外にない。